



年頭のごあいさつ

院長 森田 信敏

地域の皆さまのご支援と職員の皆さまの努力で何とか新年を迎えることができました。例年であれば無事新年を迎えると書くところですが、今回は昨年12月1日に院内発生した新型コロナウイルスクラスターが本稿執筆時いまだ収束をみておらず(1月13日をもって当院クラスターは終息しました)、何とか新年を迎えたというのが実感であります。感染された患者様、そのご家族様におかれましては大変なご苦勞、ご心痛をおかけいたしましたことをこの場をお借りしてまずは心よりお詫び申し上げます。

今年のあいさつには、令和新時代、AI革命、働き方改革、地域医療計画による病床削減圧力などの言葉が並び、この時は中国武漢で起こった未知のウイルスによる感染症が、まさか1年後日本のみならず世界の生活様式まで変えるとは夢にも思いませんでした。新型コロナに関して、当初私は呼吸器内科専門医がいない当院は無縁かと考えておりましたが、まだクルーズ船がニュースにあげられている頃に鈴木隆夫徳州会理事長(当時)の指示により、休床病棟に隔離病棟を作り受け入れ準備をしました。また地域への貢献として、先ず、外来PCR検査を考え、新型コロナ対策に自ら手上げていただいた金先生、ICDの松下先生らを中心に、県内では他に先駆けドライブスルー方式でのPCR検査体制を確立しました。これは地域の中で、高い評価をいただきました。準備だけで終わるかに見えた感染症病棟が第3波の患者激増により稼働開始した矢先、12月1日に病棟で陽性者を確認することとなりました。早期検査、隔離で収束できるかと考えましたが、やはり新型コロナは非常に手ごわい感染症でクラスター化してしまいました。しかし、遺伝子検査の機器を早期から整備し感染症病棟を準備していたことは大きな戦力になりました。また、職員一丸となった感染への取り組みは、様々なことを我々に学ばせてくれました。今しばらく続くであろうウィズコロナを乗り切る当院の重要な力になるものと信じております。

コロナ禍にあつて地域の皆さまの変わらぬご支援は当院にとり何物にも代えがたい励みとなりました。またクラスター発生時職員の子供が安心して通学継続できるよう迅速にお取り計らいいただいた杉本牧之原市長様はじめ関係各位にも感謝申し上げます。

ワクチンの効果もまだわからず、今年がどのような1年になるのか全く見通せませんが全職員が知恵を絞ってこの未曾有の難局を乗り切りたいと思います。



応援・ご支援ありがとうございます

公益社団法人島田法人会青年部の皆様が“医療従事者の皆さんへの支援と、感染者やその周辺の方への誹謗中傷などの差別のない社会作りの啓蒙”を目的としてチャリティー募金を行い、当院へご寄付いただきました。また、相良中学校、細江小学校の全校生徒さん、静岡県立藤枝西高校バドミントン部の皆さん、ローソン島田中央町店、静岡県ボランティア協会、その他多くの方から応援メッセージやお手紙、資材の寄付をいただきました。

◆◆おしらせ◆◆ 1月14日(木)から、外来診療を通常どおり行っています。

受診の際には、必ず『おくすり手帳』をご持参ください。